令和6年9月

令和６年　　７月　～　９月期　実　績
令和６年　　10月　～　12月期　見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目　　次

主要景況項目の動き …… 2

業況天気図 …… 3

全産業の推移 …… 4

製造業の推移 …… 7

建設業の推移 …… 11

小売業の推移 …… 15

サービス業の推移 …… 19

全産業の過去データの推移 …… 23
＊平成15年1月以降

〔集計資料〕

Ｄ・Ｉとは

Ｄ・Ｉとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

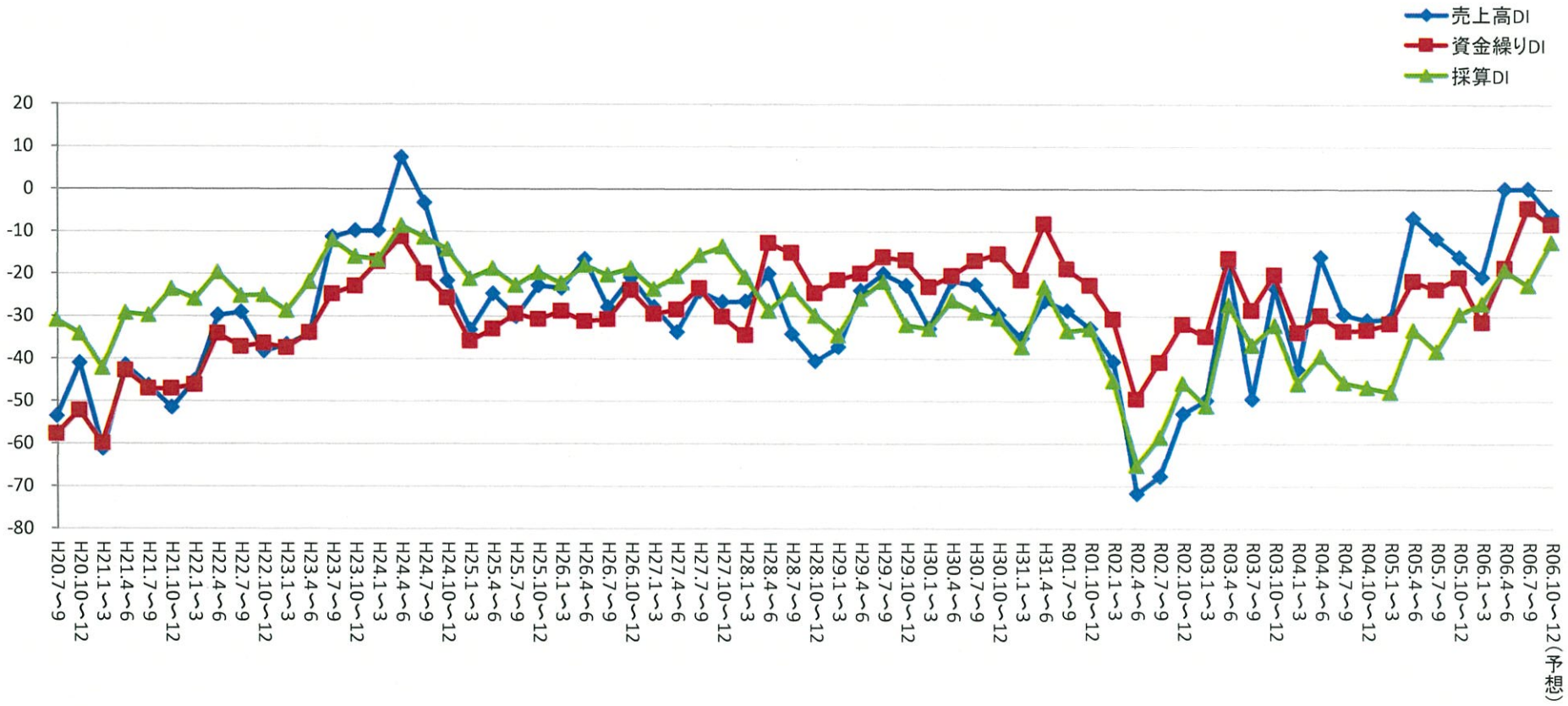
Ｄ・Ｉがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はＤ・Ｉはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50％、不変企業30％、減少企業20％の場合、Ｄ・Ｉは50 － 20 ＝ 30となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

［岩手県 産業全体］

主要景況項目の動き　－前年同期比－



業　況　天　気　図

期間 / 業種	令和4年 10～12月	令和5年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和6年 1～3月	4～6月	（今期） 7～9月	（見通し） 10～12月
製造業	曇	曇	曇	雨	曇	曇	薄曇	薄曇	薄曇
建設業	雨	雨	曇	雨	曇	曇	晴	薄曇	薄曇
小売業	雨	曇	曇	薄曇	雨	雨	曇	曇	薄曇
サービス業	雨	曇	晴	晴	薄曇	曇	薄曇	薄曇	曇

売上高DI	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10.0	△10.1～△30.0	△30.1～△100.0
表示	快晴	晴	薄曇	曇	雨

売　上　高

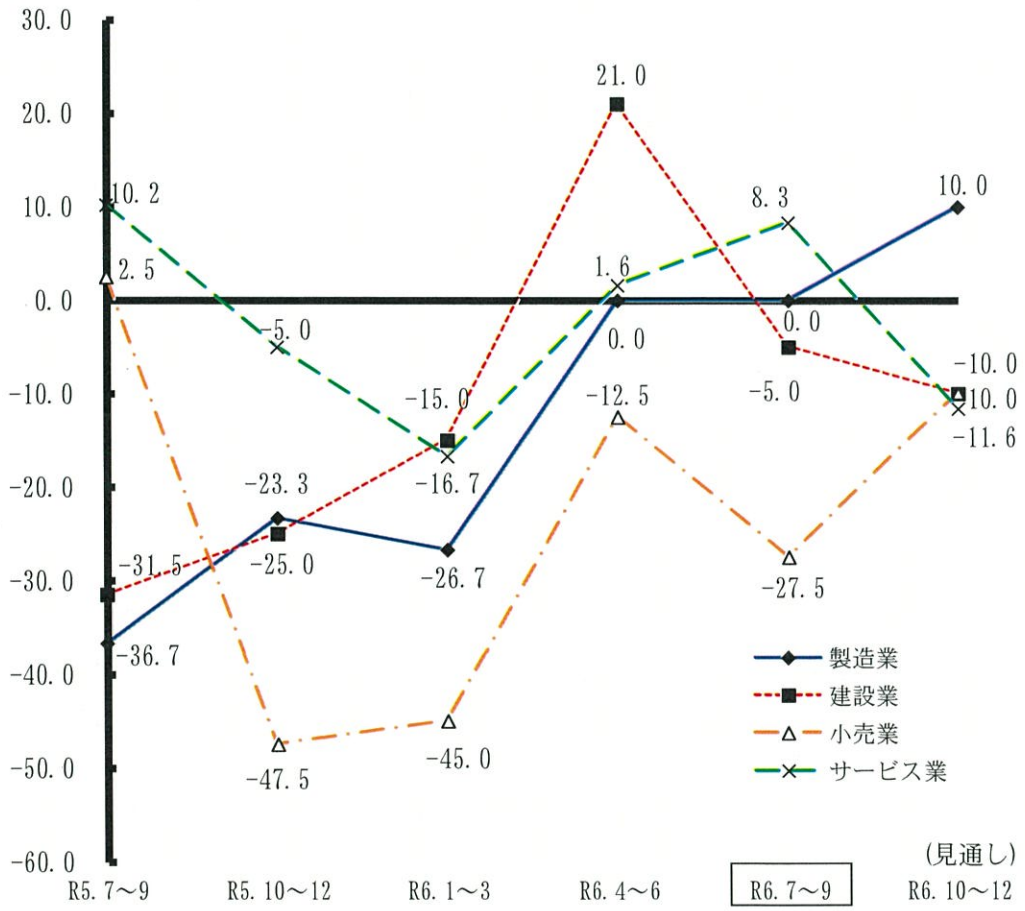
サービス業の売上高D･Iが2期連続改善
建設業、小売業は悪化に転じる

今期の売上高Ｄ・Ｉは、サービス業において２期連続の改善となりましたが、建設業、小売業は悪化に転じました。建設業は前期７年ぶりにプラス域に到達していましたが、再びマイナス域まで悪化しています。

サービス業は６．７ポイントの上昇により８．３まで改善、製造業は前期と横ばいとなっています。建設業は２６．０ポイントの大幅な減少により△５．０まで悪化、小売業も１５．０ポイントの減少により△２７．５まで悪化しています。

来期は、製造業、小売業が改善し、製造業はプラス域に達することが見込まれるものの、２期連続して改善傾向にあったサービス業は再び悪化に転じ二桁のマイナス域となり、また、建設業も今期に引続き悪化する見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



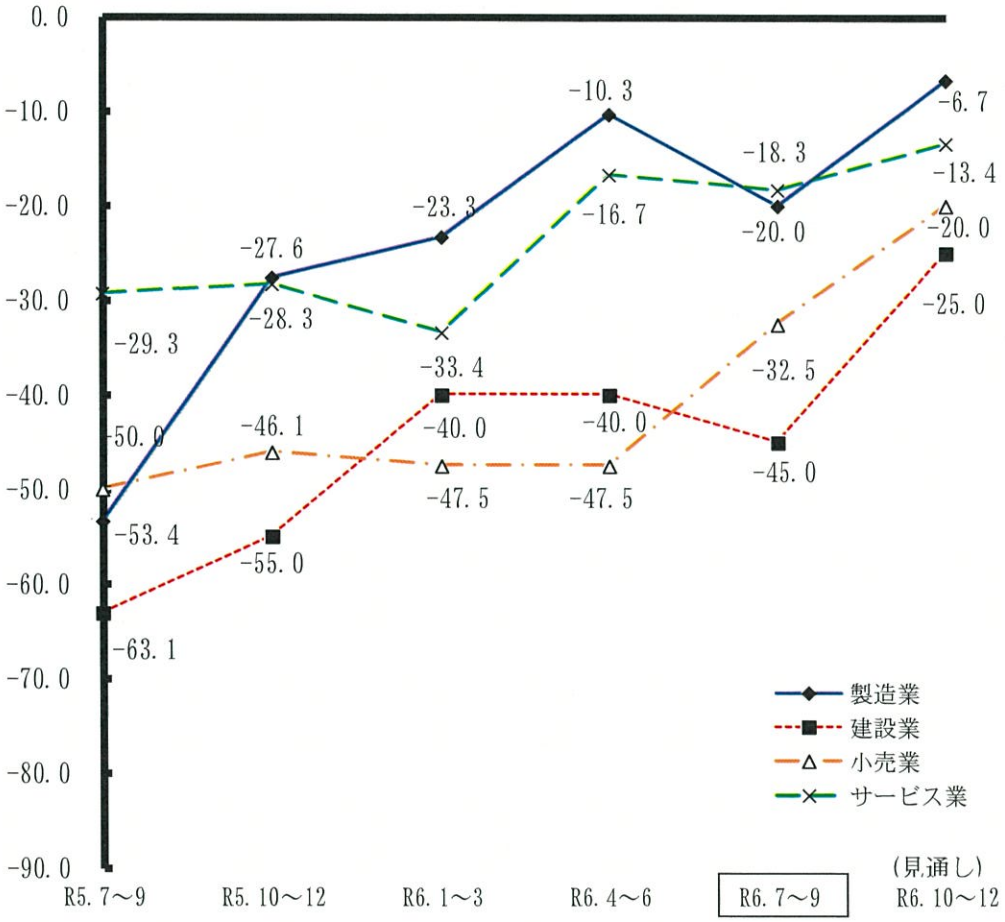
採　　算

小売業において採算D･Iが改善
製造業、サービス業、建設業は悪化

今期の採算Ｄ・Ｉは、小売業が大幅な改善となりました。他方、製造業、サービス業、建設業は悪化に転じています。
小売業は１５．０ポイント上昇して△３２．５まで改善、他方、製造業は９．７ポイント減少して△２０．０まで悪化しました。サービス業も１．６ポイントと小幅ながら減少して△１８．３まで悪化、建設業も５．０ポイント減少して△４５．０まで悪化して低い水準にとどまっています。

来期は、小売業、製造業、建設業が大幅に改善、サービス業も改善に転じ、全業種において改善することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



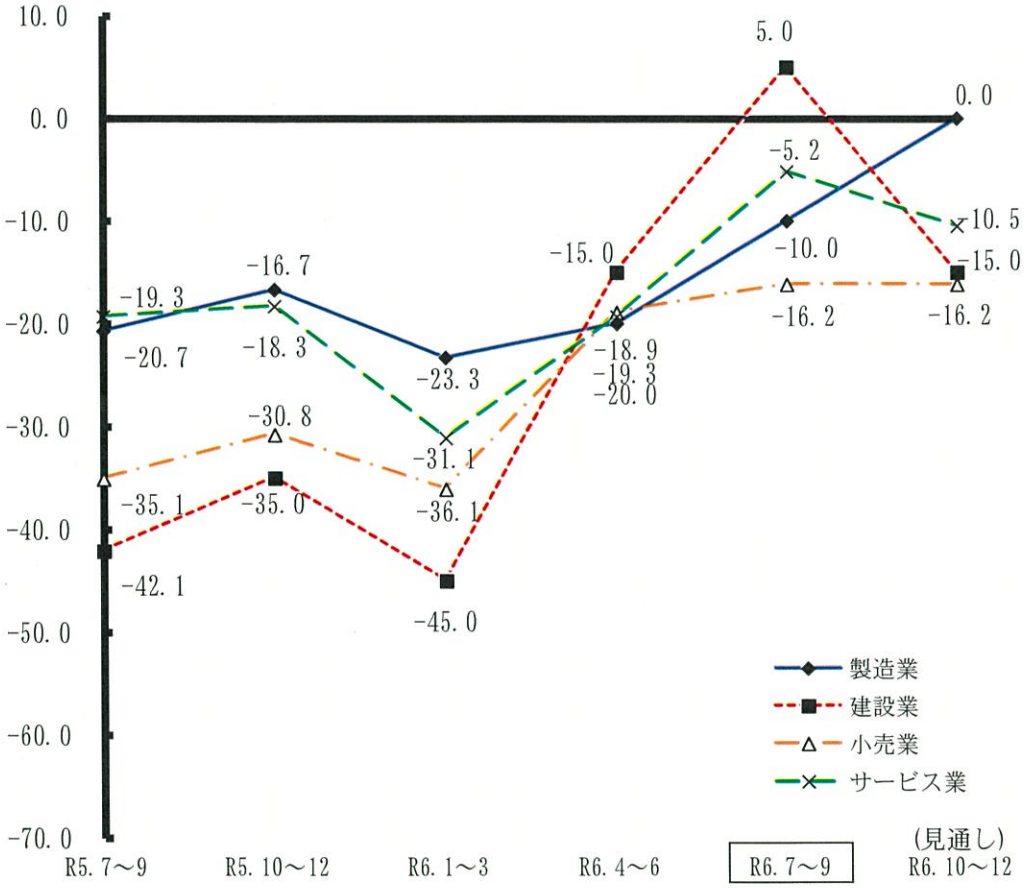
資 金 繰 り

全業種において資金繰りが2期連続の改善
建設業は二桁の上昇によりプラス域へ到達

前期、全業種において改善していた資金繰りＤ・Ｉは、今期も引き続き全業種において上昇し、２期連続の改善となりました。

前期大幅に上昇した建設業は今期も引き続き上昇し、２０．０の大幅な増加により５．０となりプラス域に到達しています。サービス業は１４．１ポイント増加して△５．２まで改善、製造業も１０．０ポイント上昇して△１０．０まで改善、小売業も２．７ポイントと小幅ながら上昇して△１６．２までそれぞれ改善しています。

来期は、製造業においては引き続き資金繰りＤ・Ｉの改善が見込まれ、小売業は今期と横ばいとなることが見込まれるものの、今期大幅に改善した建設業が大幅な悪化に転じるほか、サービス業も悪化に転じることが予想されています。



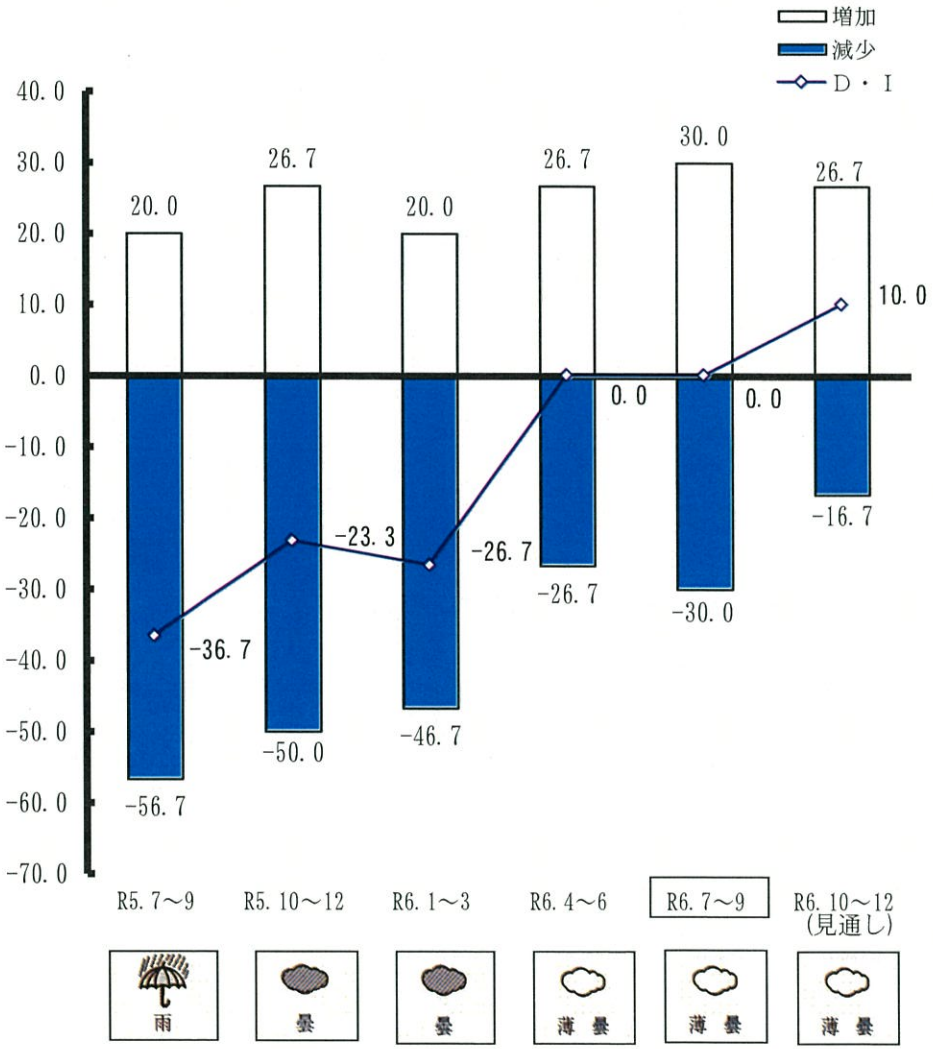
売　上　高

<今　　期>

<来期見通し>

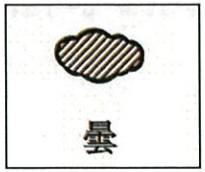
今期は、売上高増加企業の割合が３．３ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が３．３ポイント増加したことにより売上高Ｄ・Ｉは前期と横ばいにとどまり、０．０となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少するものの、売上高の減少を予想する企業割合が大幅に減少することから、売上高Ｄ・Ｉは改善し、プラス域に到達する見通しです。



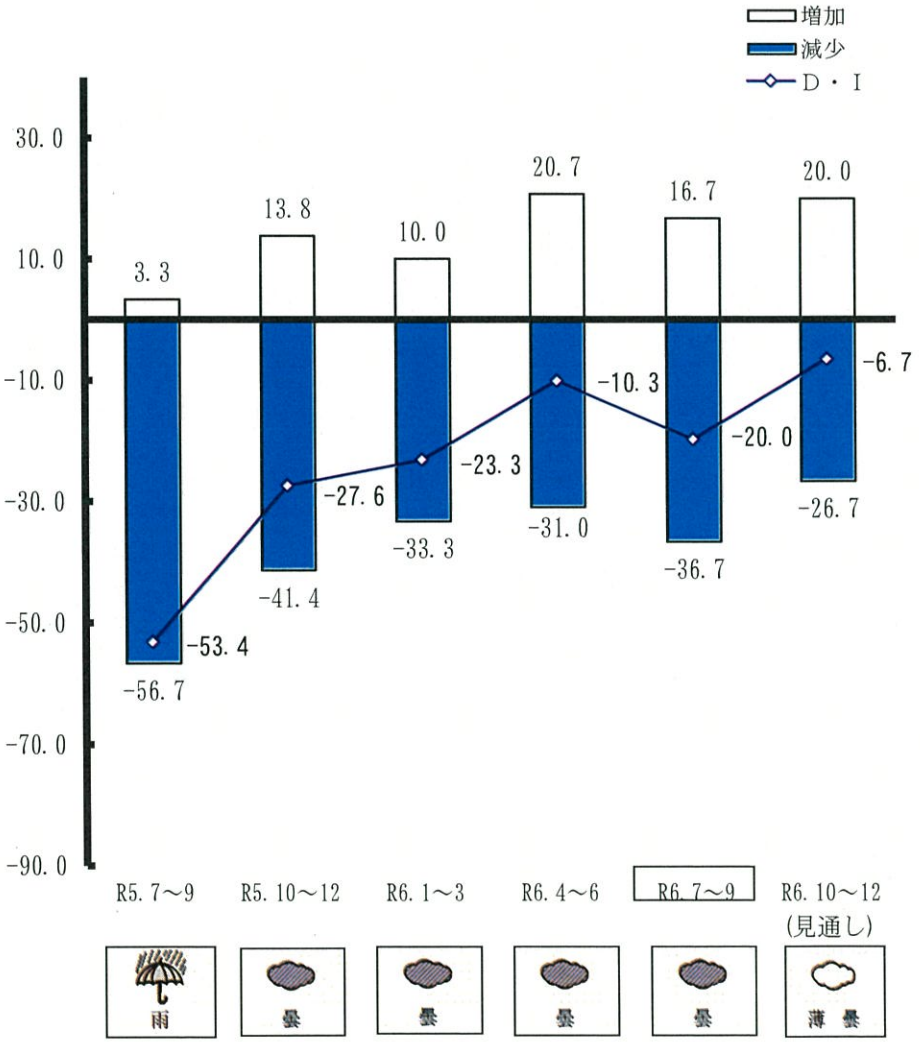
採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞



今期は、採算が改善した企業の割合が４．０ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が５．７ポイントの増加となったことから、採算Ｄ・Ｉは９．７ポイントの減少となり、△２０．０まで悪化しました。

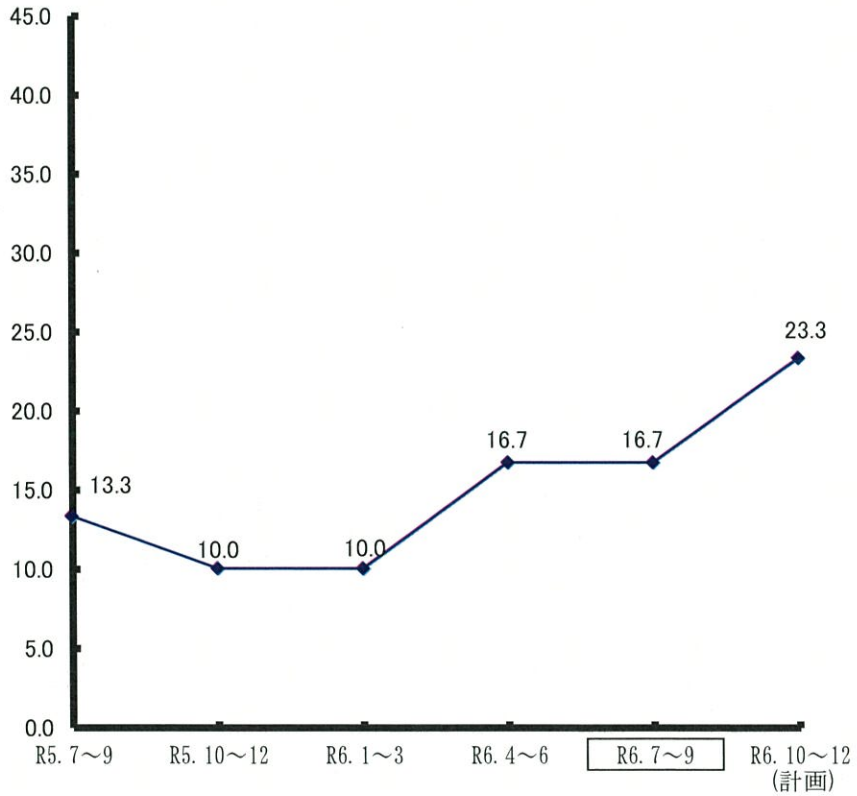
来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業も減少となることから、採算Ｄ・Ｉは、上昇することが見込まれます。景況天気図も曇りから薄曇りへと変化することが予想されています。



設　備　投　資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は前期と横ばいの１６．７となりました。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が大幅に増加し、２３．３まで上昇することが予想されています。

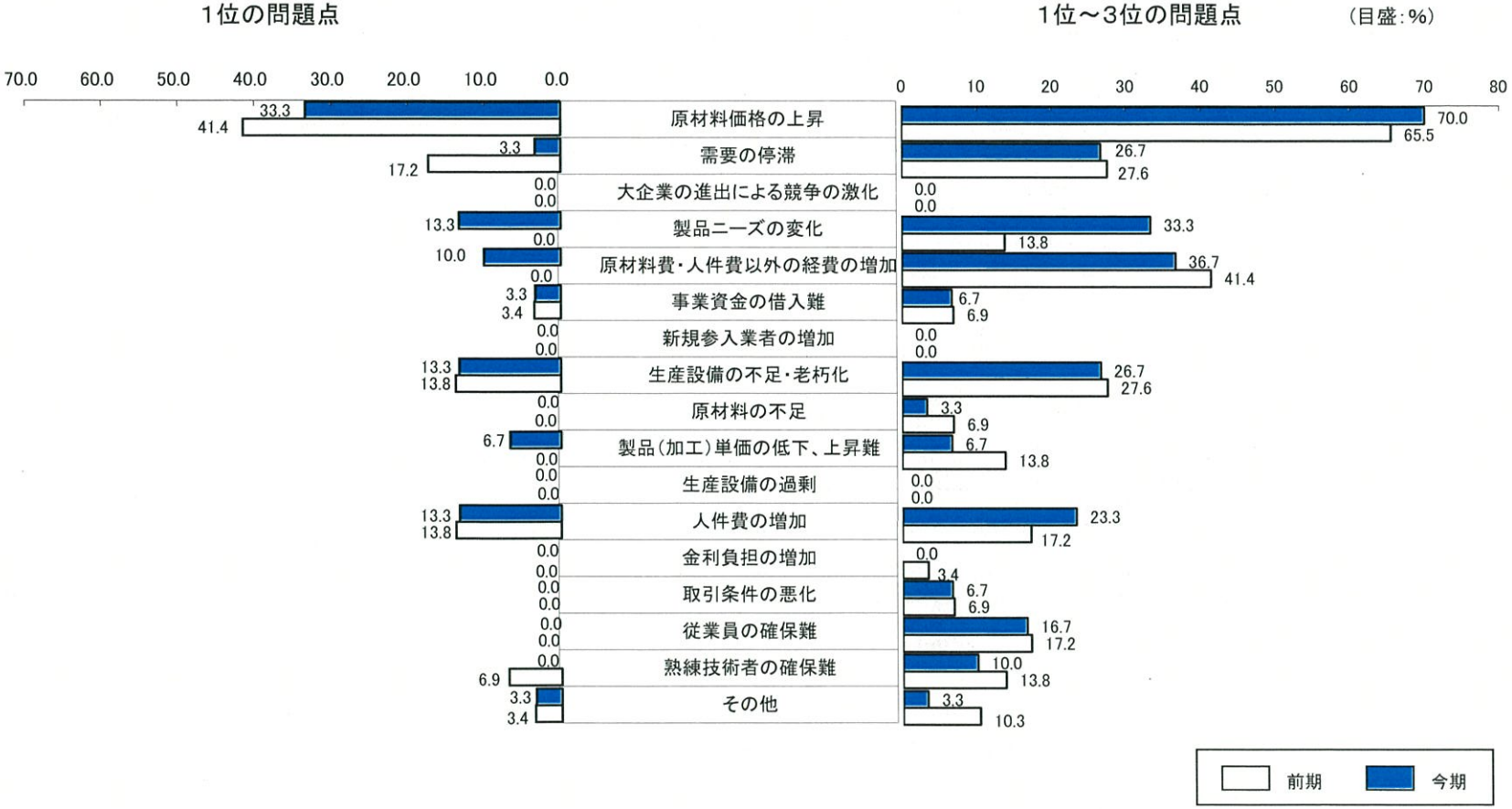


（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

経営上の問題点

岩手県　製造業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



売　上　高

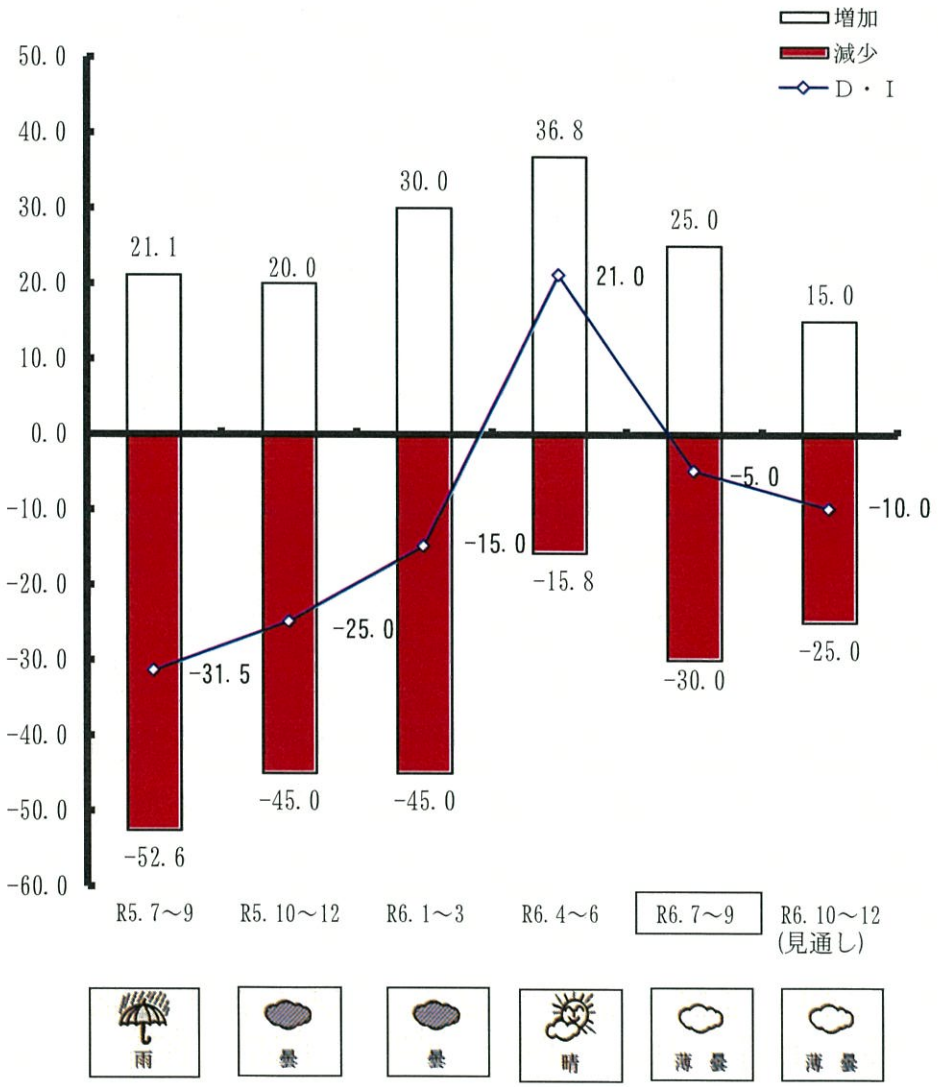
<今　　期>

<来期見通し>

建設業の売上高Ｄ・Ｉは、前期まで３期連続して上昇し、二桁のプラス域に達していましたが、今期は、売上高が増加した企業割合が１１．８ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が１４．２ポイントの大幅な増加となったため、売上高　Ｄ・Ｉは低下し、△５．０まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少するものの、売上高の減少を予想する企業の割合が減少することから、売上高Ｄ・Ｉは小幅な低下にとどまることが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高

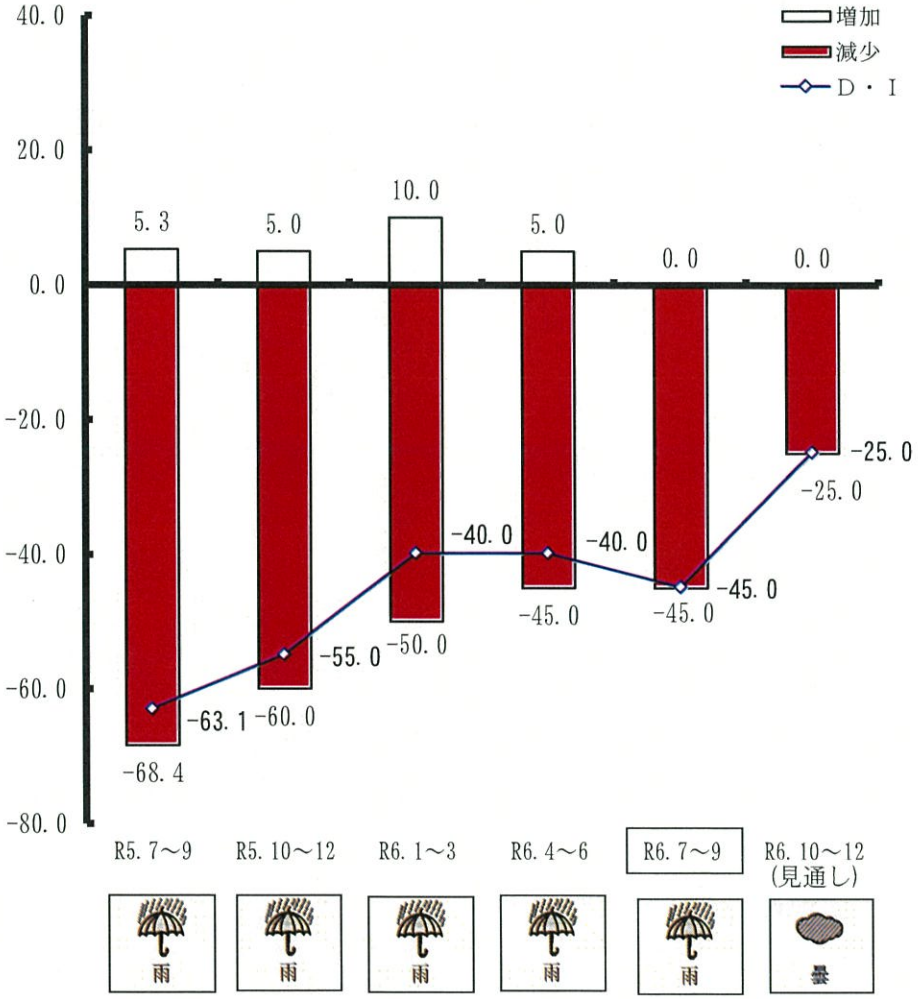


採　　算

<今　　期>　　<来期見通し>

今期は、採算が改善した企業の割合が、５．０ポイント減少してゼロとなり、採算の悪化を挙げた企業の割合が前期と横ばいとなったことから、採算Ｄ・Ｉは低下し△４５．０の低い水準ににとどまりました。

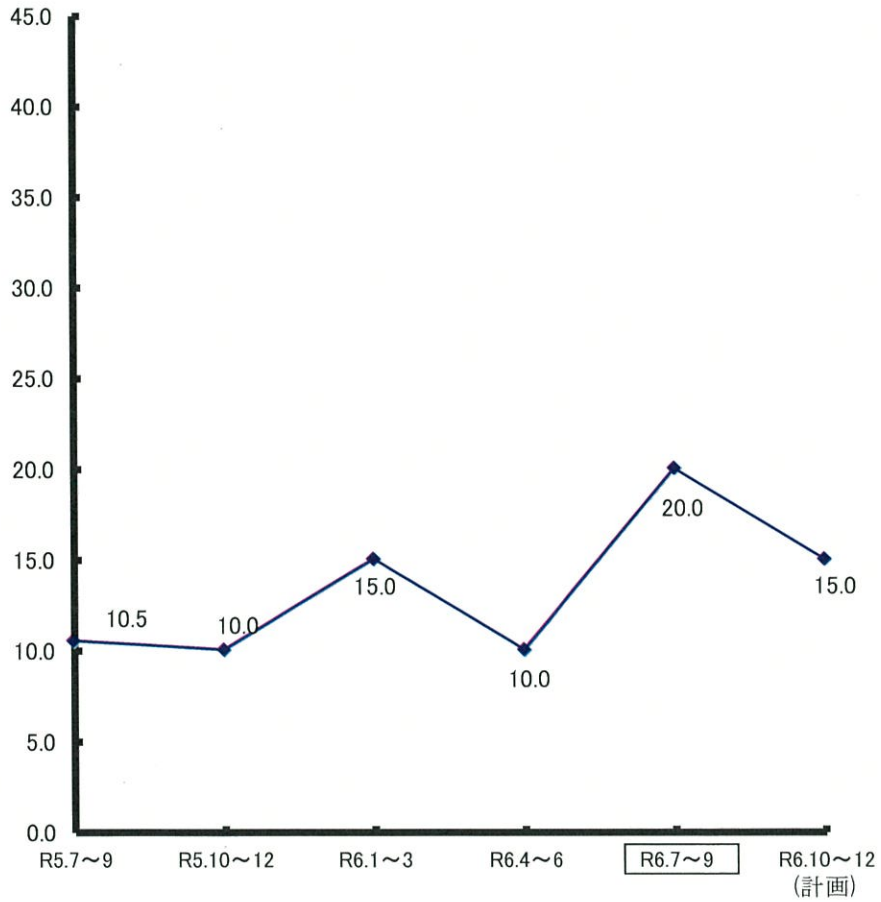
来期は、採算の改善を予想する企業は今期と横ばいのゼロとなるものの、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算Ｄ・Ｉは改善となり、景況天気図も雨から曇へと変化することが予想されています。



設　備　投　資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期から１０．０ポイント増加し２０．０となりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は５．０ポイント減少し１５．０程度となることが予想されます。

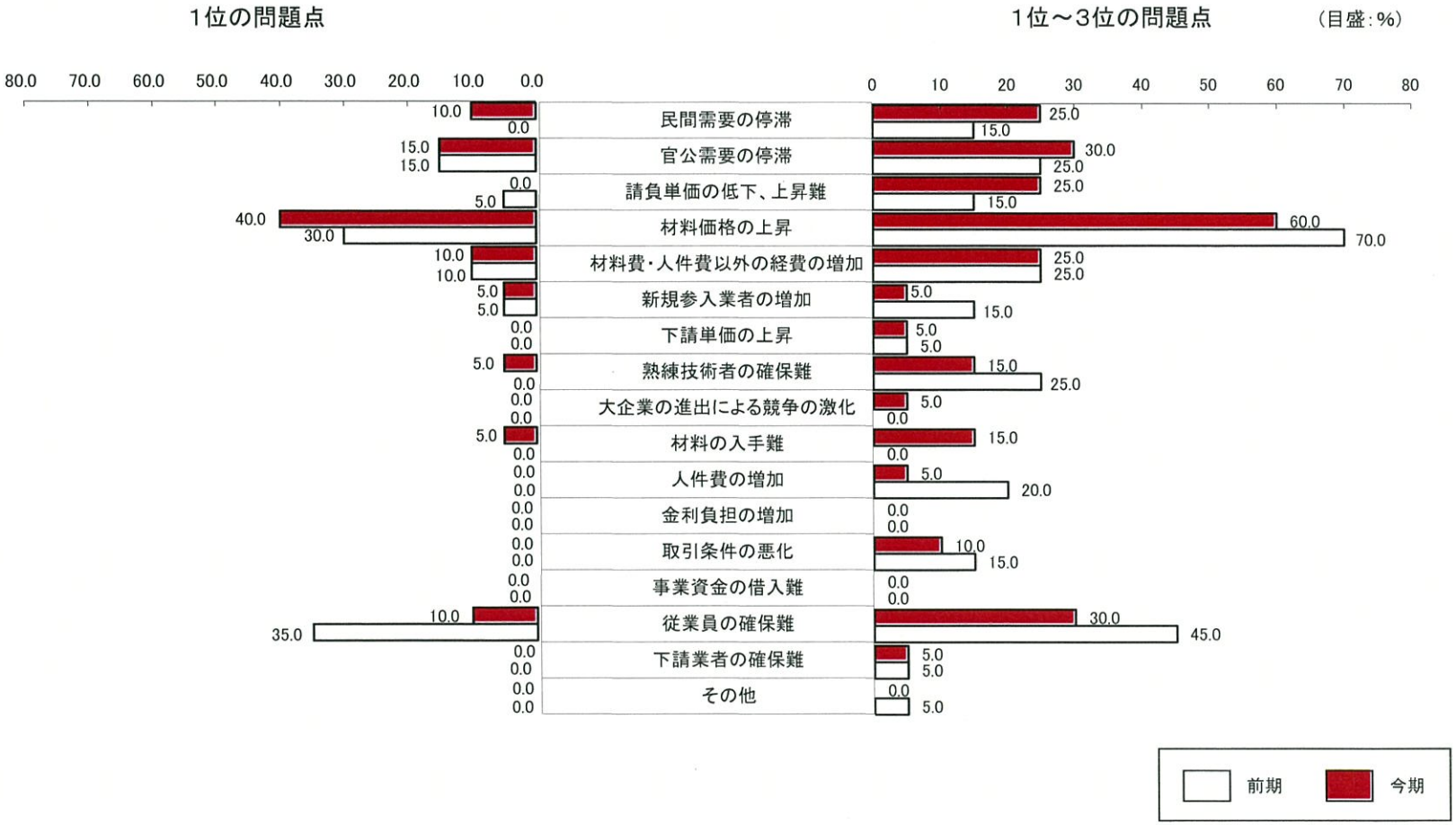


（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

経営上の問題点

岩手県　建設業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



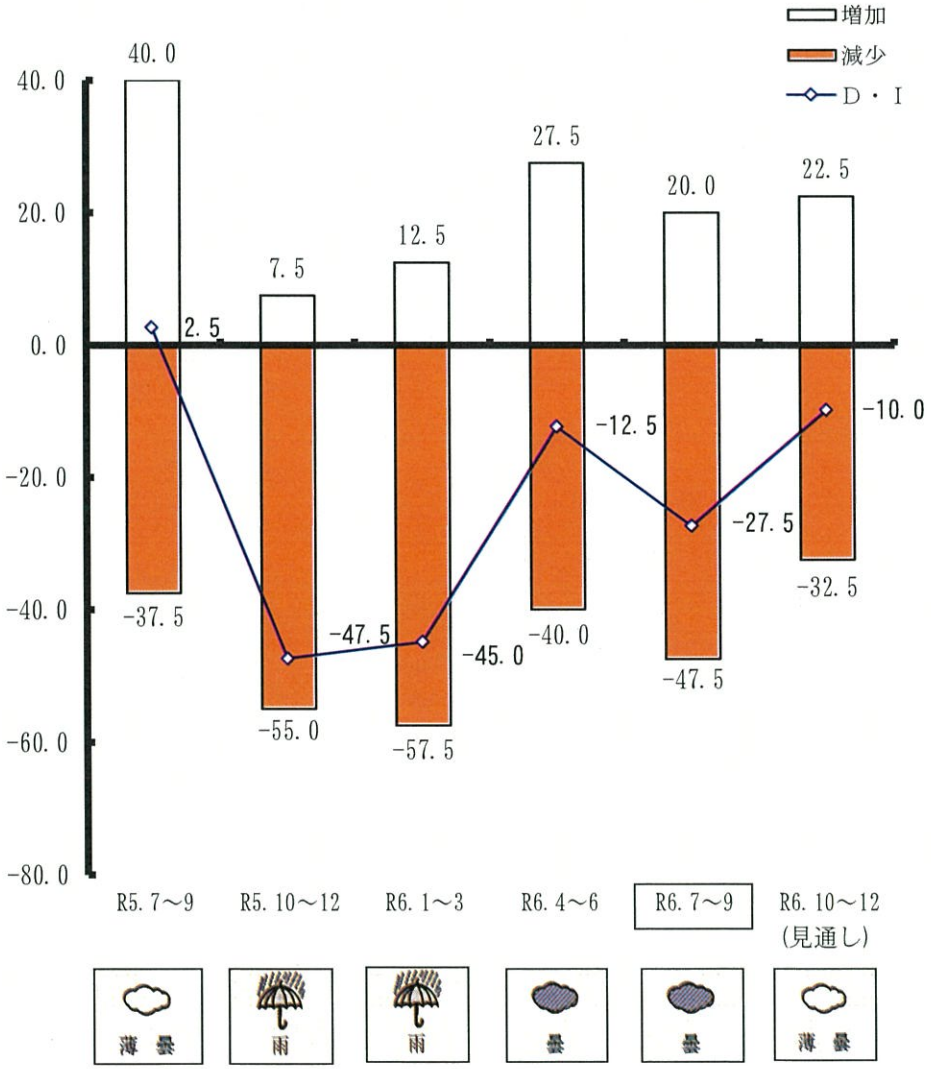
小　売　業　の　推　移

売　上　高

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞

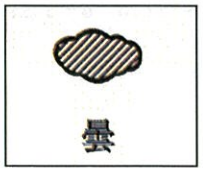
今期は、売上高増加企業の割合が７．５ポイント減少し、売上高減少企業の割合が７．５ポイント増加したことにより、売上高Ｄ・Ｉは１５．０ポイントの低下となり△２７．５まで悪化しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が増加に転じ、売上高減少を予想する企業割合が減少することから、売上高Ｄ・Ｉは大幅な回復となる見通しです。



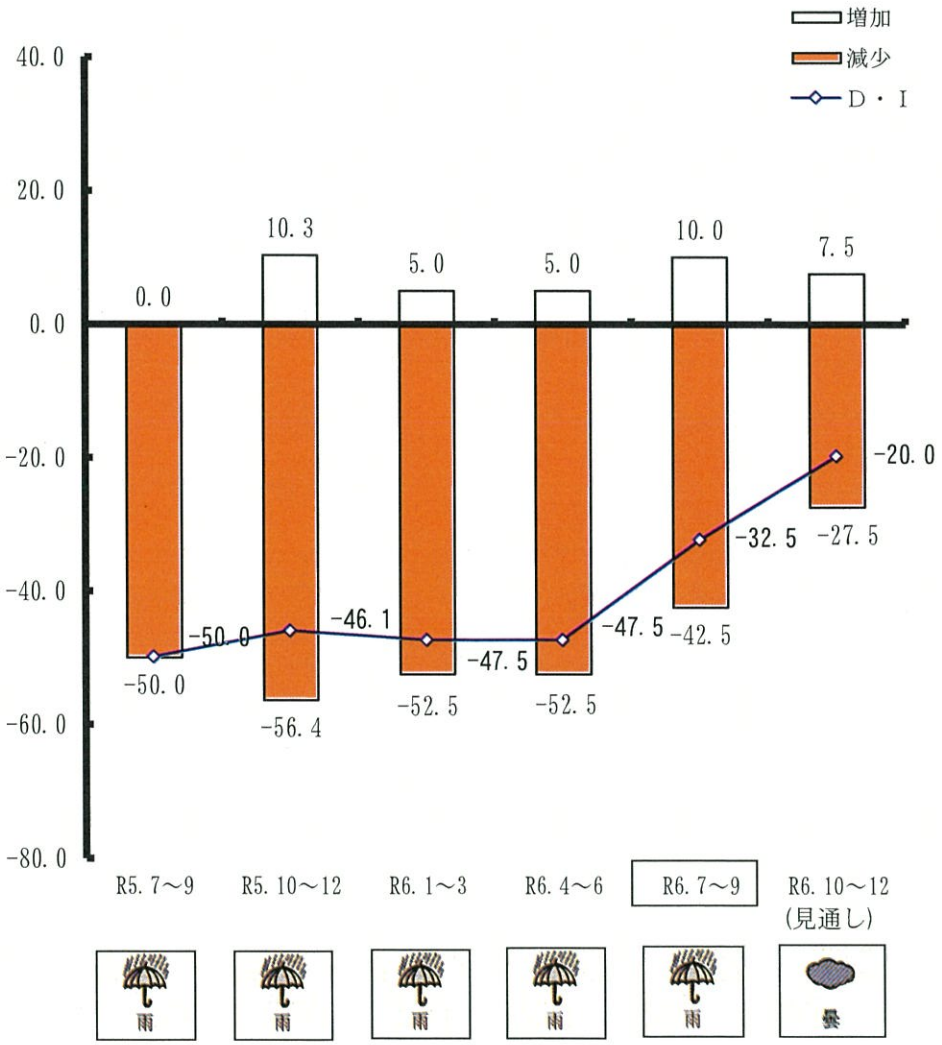
採　　算

＜今　　期＞　　＜来期見通し＞



今期は、採算が改善した企業の割合が５．０ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が１０．０ポイント減少したことから、採算Ｄ・Ｉは１５．０ポイント上昇し、△３２．５まで回復しました。

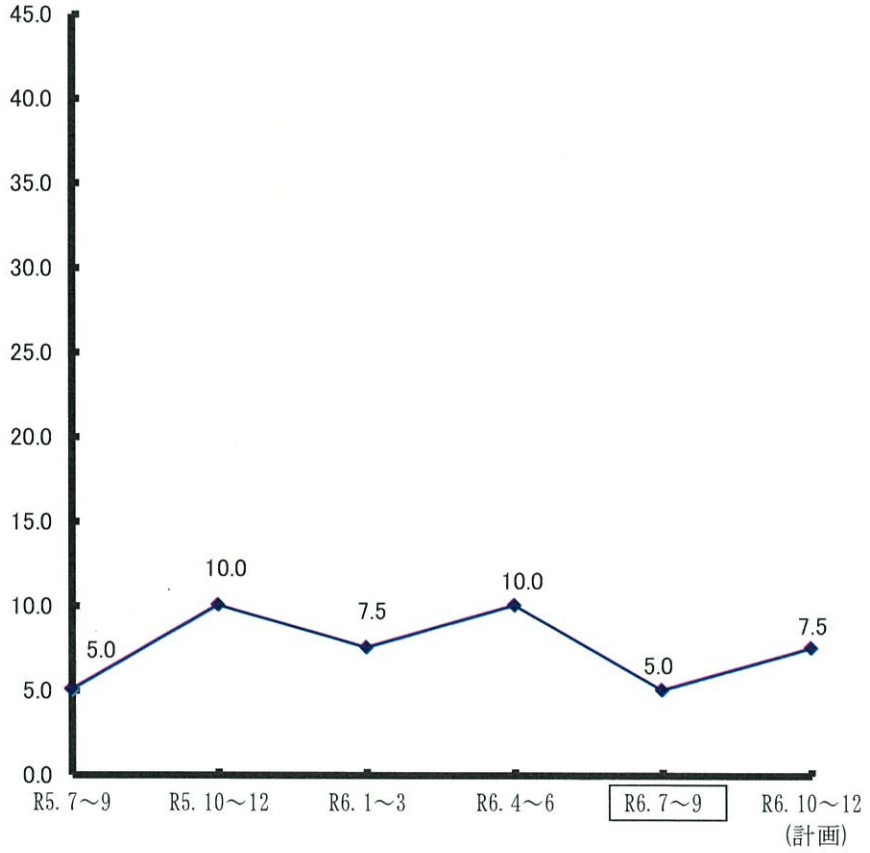
来期は、採算の好転を予想する企業割合が減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算Ｄ・Ｉは２期連続の改善となる見通しです。



設　備　投　資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より５．０ポイント減少して５．０の低い水準ににとどまりました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は２．５ポイント増加し、７．５となる見通しです。

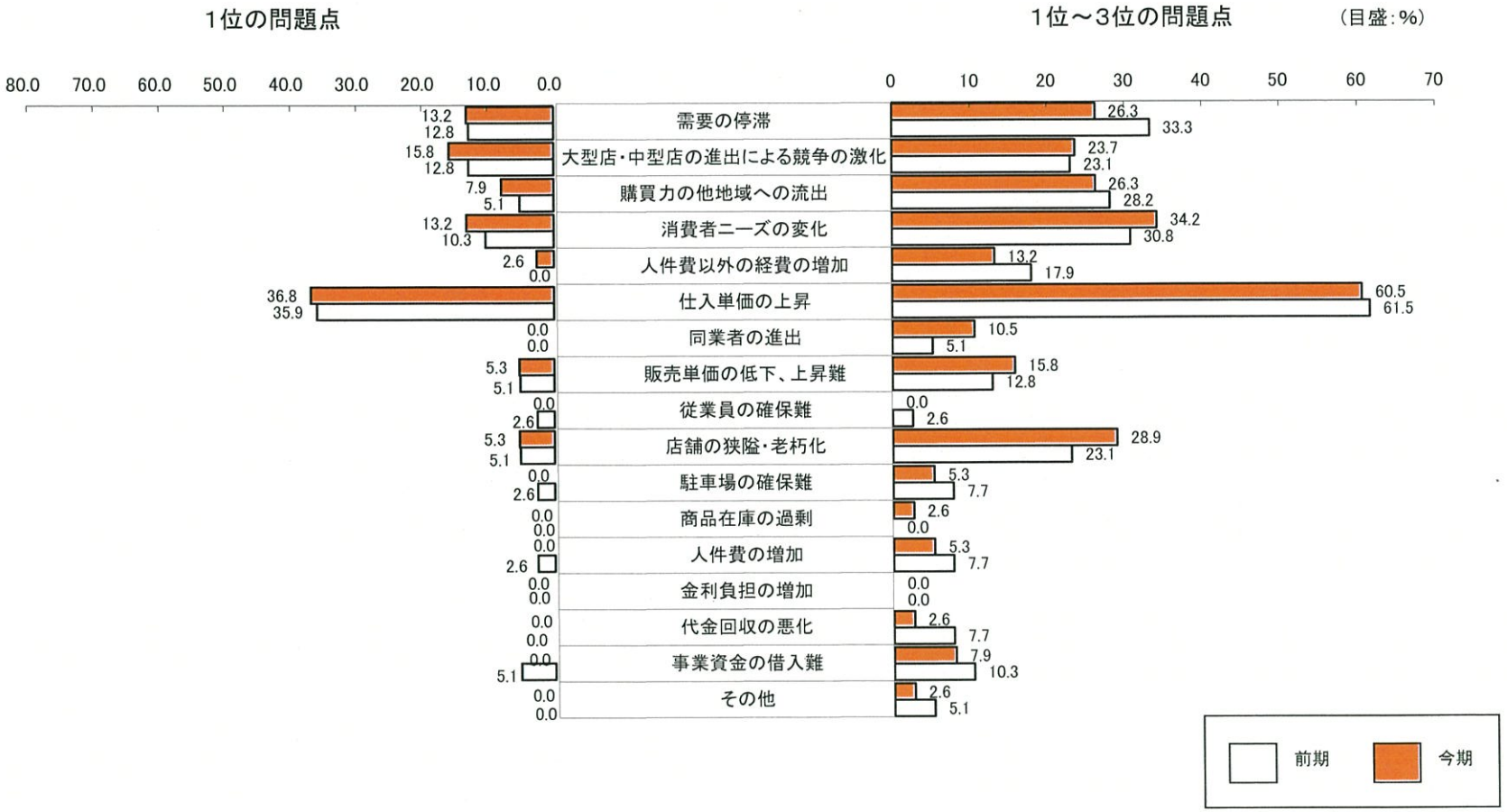


（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

経営上の問題点

岩手県　小売業

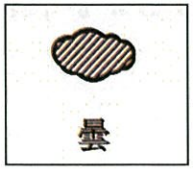
経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



売　上　高

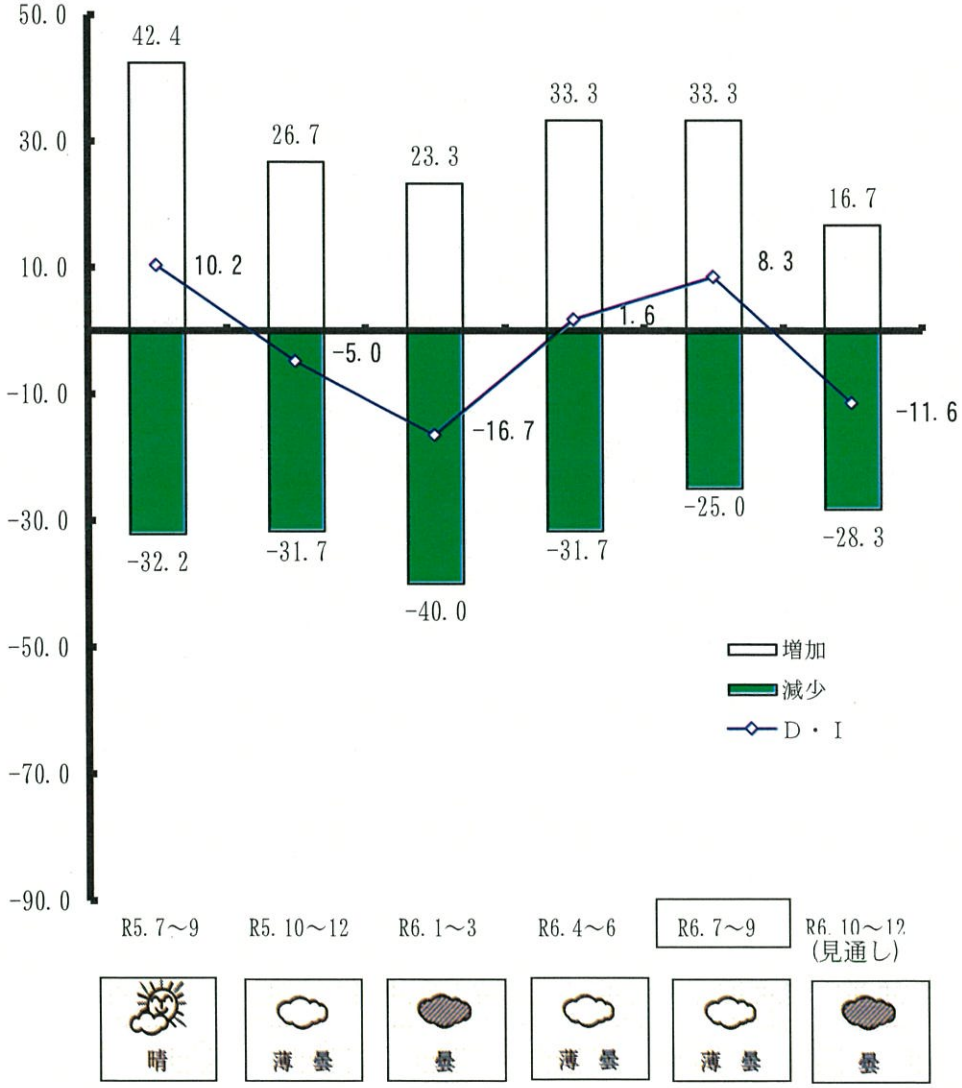
<今　　期>

<来期見通し>



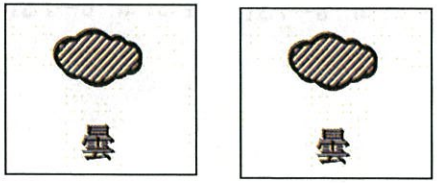
今期は売上高増加企業の割合は前期と横ばいにとどまったものの、売上高減少企業の割合が６．７ポイント減少したことにより、売上高Ｄ・Ｉは６．７ポイント増加して８．３まで回復しました。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が大幅に減少、売上高減少を予想する企業割合が増加することから、売上高Ｄ・Ｉは悪化に転じ、再びマイナス域まで低下することが予想されています。



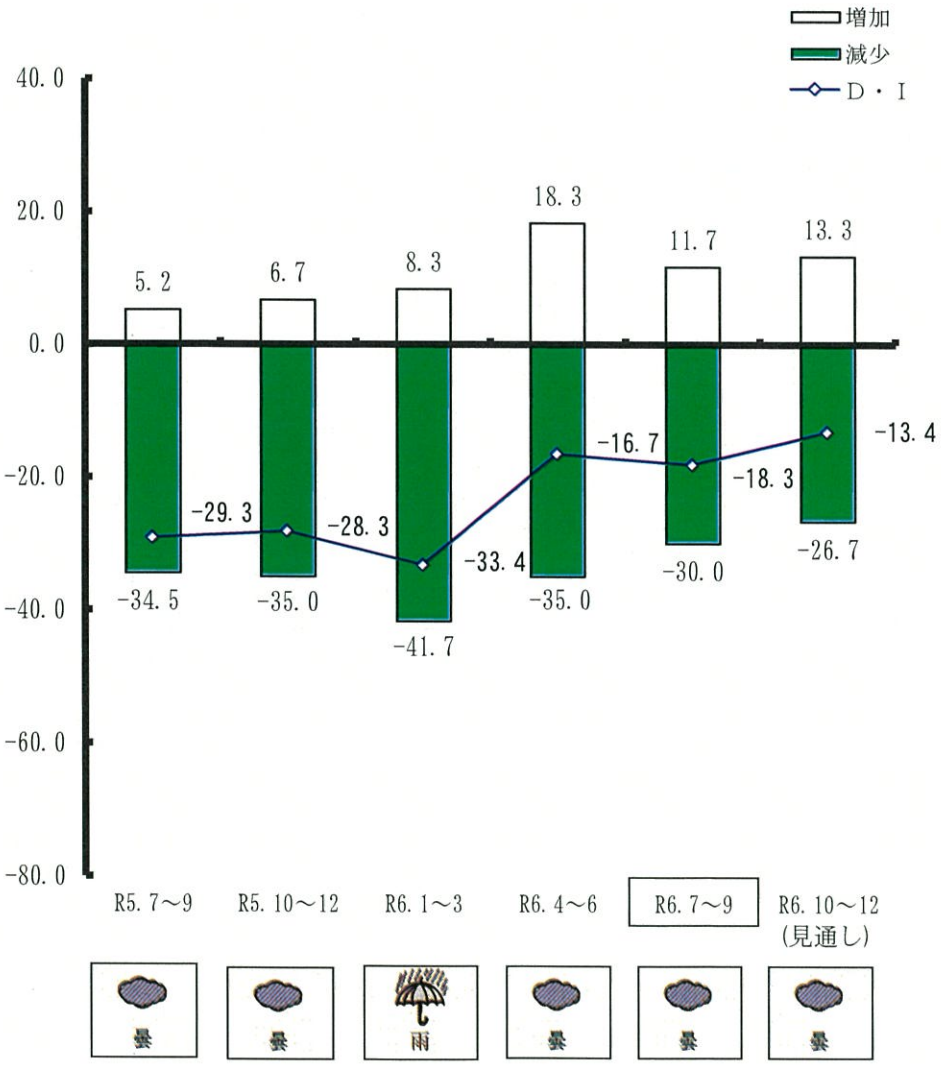
採　　算

<今　　期>　　<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が６．６ポイント減少し、他方、採算が悪化した企業割合が５．０ポイント減少したことにより、採算Ｄ・Ｉは低下し、△１８．３まで僅かに悪化しました。

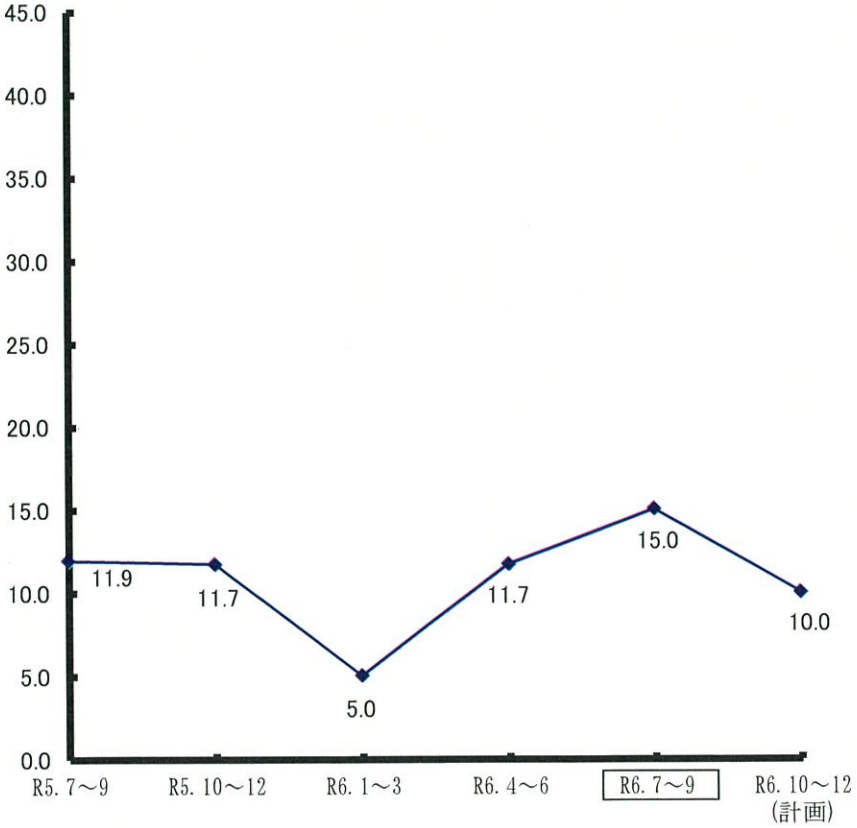
来期は、採算の改善を予想する企業割合が増加し、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算Ｄ・Ｉは上昇に転じ、△１３．４まで改善する見通しです。



設　備　投　資

今期設備投資を実施した企業数の割合は２期連続の増加となり、１５．０となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は減少に転じ、１０．０程度まで減少する見通しです。

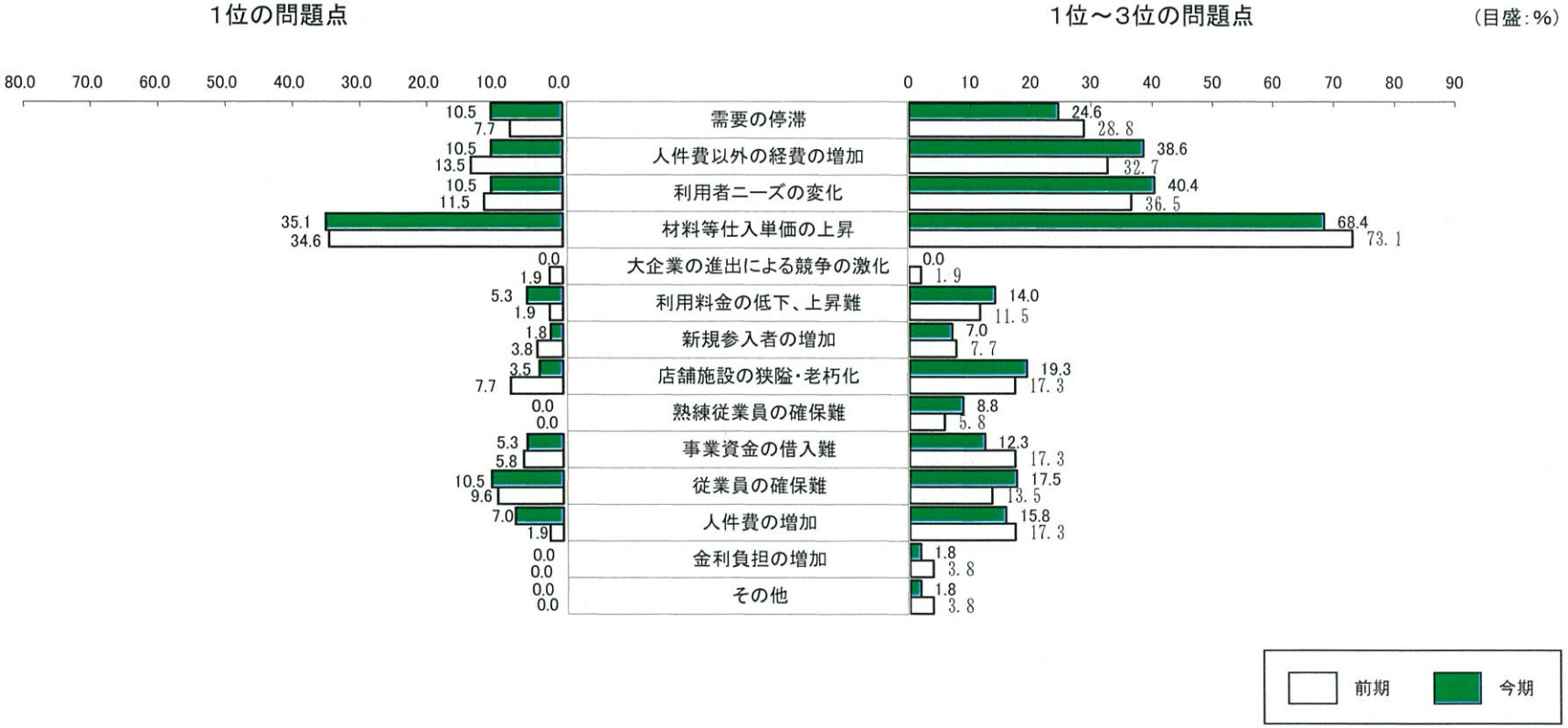


（注）この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

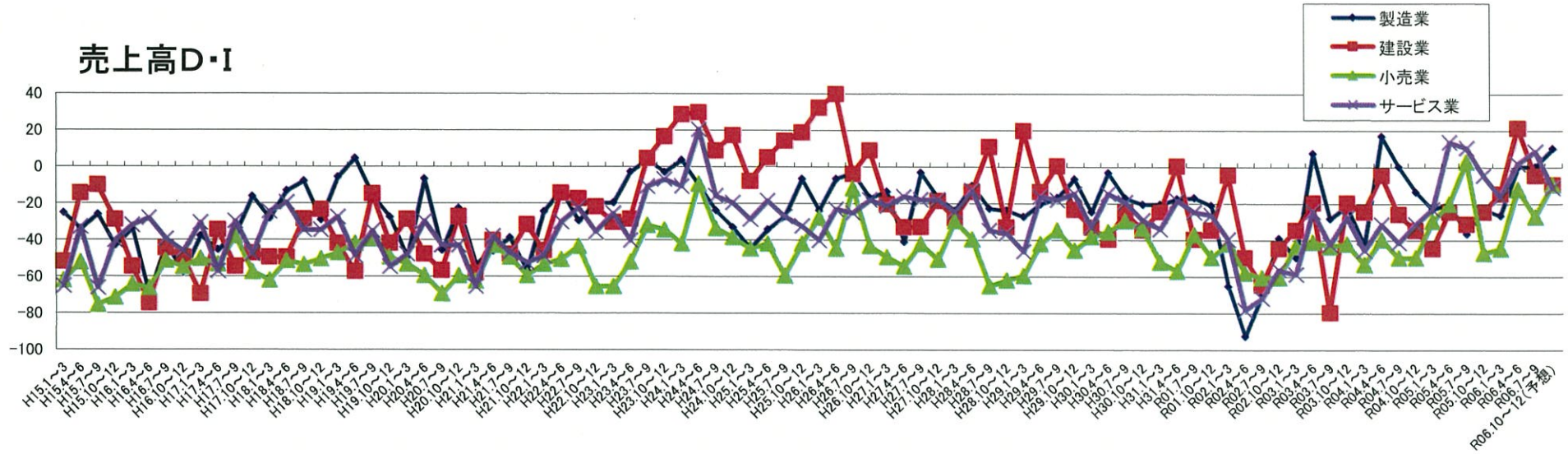
経営上の問題点

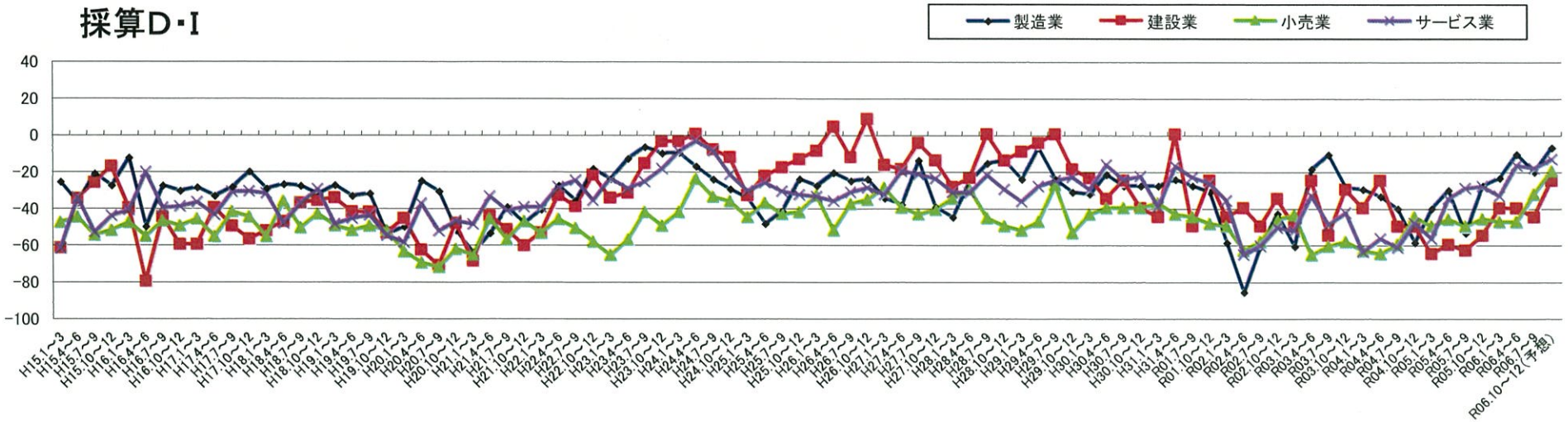
岩手県　サービス業

経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



全産業の過去データの推移（平成15年1月以降）





集　計　資　料

調　査　要　項

1. 調　査　対　象　　（1）対象地区　　県内１０商工会地区　　二戸市、八幡平市、雫石、矢巾町、前沢
（商工会名）　　金ヶ崎町、山田町、田野畑村、野田村、一戸町

（2）対象企業数　　150　　企業

（3）回答企業数　　150　　企業

2. 調査対象期間　　令和６年７月～９月を対象とし、調査時点は令和６年９月１日としました。

3. 調　査　方　法　　（1）商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。

（2）調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

4. 対象企業等内訳

項目／業種	対象企業数	回答企業数	回答率（％）
製造業（地域産業）	30　（　20.0）	30（　20.0）	100.0
建設業	20　（　13.3）	20（　13.3）	100.0
小売業	40　（　26.7）	40（　26.7）	100.0
サービス業	60　（　40.0）	60（　40.0）	100.0
	150　（　100.0）	150（　100.0）	100.0

（注）カッコ内の数字は、構成比（％）を表す。

5. そ　の　他　　本報告書中のＤ・Ｉとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。